

報告事項（1）

2019年度事業報告

I 事業実施概要

本会は、昭和44年7月に互療会として発足以来、全国のアストメイトのQOL向上を目的とする公益法人として活動して来たが、50周年の記念すべき年に当たり、全国から集まった会員やお世話になった皆様方をお招きして、盛大に記念式典を挙行し、記念講演会を開催すると共に、半世紀に亘る本会の活動を末永く歴史として留めおくため、2つの記念誌を刊行し関係各位にお届けした。

本会は、全国21万人のアストメイトを対象とした公益目的事業を、都道府県や政令市に設置した支部を中心として取組んだが、特に本会の事業の中核を成す社会適応訓練事業において、大阪府支部では日頃の活動が認められ、大阪府から初の事業委託を受ける成果があった。

ただ、2020年、年初からの新型コロナウイルス感染症の感染拡大による、外出等の自粛要請に伴い、講習会や相談会等の集会在全国で不可能となる事態となり、今後の影響が懸念される。

また、広報事業においては、昨年度来取組の既存広報物の刷新を進めているが、ポスターと冊子「アストメイトの手引き」の更新を行った。

更に、夏以降の巨大台風や集中豪雨の自然災害により甚大な被害が発生する年となったが、ストーマ用品セーフティーネット連絡会（OAS）によるストーマ装具の1ヶ月無償提供の支援により、合計で39名のアストメイトが救済を受けた。

尚、会員増強のための施策として、北海道を除く8ブロックのブロック会議において成功支部の事例発表や協議を行なったが、会員減少は歯止めがかからない状況で、一部の支部では支部運営が困難となるケースが見られ、支部の廃止や統合を実施した。

II 公益目的事業

1. 講演会、相談助言事業

（1）講演会・講習会・交流会の開催

支部においては、地域の実情やアストメイトのニーズに応じた講演会や講習会・体験談交流会を、別表記載の通り実施した。

また、第31回全国大会（創立50周年記念大会）では、顧問医会代表の進藤勝久先生に「アストメイトのQOL向上について」を演題として記念講演をいただいた他に、ストーマ種別にとらわれないフリートーク形式での交流会を開催し、全国から95名の参加があった。

（2）相談助言事業

入院期間の短縮に伴うケア等、アストメイトの悩みに応えて、各支部では、別表記載の相談会や個別相談を実施した。また、本部では、電話やメールによる相談対応を行った。

また、支部においては相談助言事業の円滑な遂行のため、ピアサポート基礎研修会を神奈川支部と横浜市支部で、オストミービジター（OV講習）を神奈川支部や奈良県支部で実施した。

（3）若いアストメイト交流会開催並びにサポート

若いアストメイトのQOL向上並びにオストミー協会の存続のためには、この事業は欠かせないものと位置付けられる。第31回全国大会（創立50周年記念大会）においては、59歳までのアストメイトの参加が、会員・非会員合計で40名あった。

また、支部にはポスター作成の支援並びにサポーター派遣など、8支部へ支援を行い、12支部で13回の交流会を開催した。

2. 広報啓発事業

（1）会報紙の発行

会報紙は計画通り年6回発行し会員その他関係機関・関係者に配布した。内容も、昨年多発した豪雨災害、台風災害の支部への情報提供と各支部での取組や、進藤先生のQOL調査報告、更には日身連を通じた要望書や回答等、充実した記事の掲載に努めた。

尚、年初に計画したホームページの自主運用については、現状の仕組みの提供を受け、自主運用を可能とする方向で検討中。また、オストメイトマークの周知は、会報紙トップのタイトルマークへの掲載を行っているが、今後もヘルプマークと同様に、支部の日常活動での周知に努めたい。尚、動画作成については、費用面やニーズ面から実施を見送った。

支部においては、支部会報の発行により、地域に応じた情報の発信に努め広報・啓発活動を行なった。

(2) 若いオストメイトへの情報発信

会報紙、ブログ、20/40ホームページ、フェイスブック等複数のSNS等により、全国支部の交流会開催の情報提供を行った。

(3) その他の広報活動

継続して取組の本会発行の広報資料の見直しについて、2019年度はポスターと、冊子「オストメイトの手引き」の更新を行った。

また、佐賀県各支部では、オストメイトの社会福祉の啓発を通して、本会のアピールするためのポスターや、プレゼンテーション用資料を作成し、県内7ヶ所で啓発活動を行った。

更に、日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会（JSSCR）総会の展示ブースに出展や、がん関係団体の開催する講演会の後援を行う等の啓発活動を実施した。

3. 社会適応訓練事業

当協会の中心的事業として地方自治体の委託を受けて、全国各地においてオストメイトやその家族及び関係者等のニーズに応じた講演会、講習会、研修会や相談会等を別表記載の通り開催した。講習会や相談会等の全国での開催回数は約17%減少、都道府県からの事業受託額総額は19百万円で、前年比約20万円の微増となった。

尚、従来、自治体から事業委託がなかった大阪府支部では、支部活動の成果が認められ、大阪府からの事業委託団体となり、社会適応訓練講習会を主催するという成果があった。

4. 国際交流事業

継続して実施の助け愛活動について、モンゴルオストミー協会にストーマ装具を2か所から計3回、8ケース・242個を寄贈、送付した。

また、Asia and South Pacific Ostomy Association（ASPOA）への年次報告として、本会の最近の会員数や活動状況、特にWOD（World Ostomy Day）の取組みやOstomy MarkのJIS登録等をCountry Reportとして取り纏め、ASPOA事務局に報告した。

5. 調査研究事業

(1) オストメイト生活実態調査

本会が永年取組んでいるオストメイト実態調査は、前回調査を2016年、2017年に実施し、昨年度に報告書を取り纏めたが、次回の調査を2021年に実施するに当たり、助成金の紹介があり調整を進めた結果、助成金授与の内諾を得た。

(2) 若いオストメイトへの情報発信

支部ホームページ、ブログ、20/40ホームページ、フェイスブック等複数のSNSや会報紙に、交流会開催の情報提供を行った。

6. 諸団体との連携

(1) 地方公共団体との連携

障害者差別解消法は、平成28年4月1日に施行され、共生社会の実現のためのガイドラインが提示されて以降、地方自治体においては、本ガイドラインに沿った地方自治体の条例策定が進むが、支部においては地方自治体が行う障害者差別解消や障害者週間に関わる啓発活動への参加等の協力を行なった。

(2) 諸団体との連携

- ① 日本ストーマ連絡協議会

JSSCR と一般社団法人日本創傷・オストミー・失禁管理学会（JWOOCM）、及びストーマ用品セーフティーネット連絡会（OAS）と本会で構成する日本ストーマ連絡協議会では、年3回の定期協議を行なった。2019年度は、特に相次ぐ豪雨や台風被害に対するOASの1ヶ月のストーマ装具無償提供の取組につき情報交換を行った。

② 医療者との連携

支部顧問医で構成する顧問医会と連携し、支部顧問医や地域のET/WOC ナースの協力を得て、社会適応訓練事業、ピアサポート活動、オストミービジター活動を実施した。

また、JSSCR総会時に、JOA顧問医会代表の進藤先生が開催される顧問医会に出席し、顧問医の先生方のご意見をお聞きした。

③ 介護団体との連携

介護士によるストーマケア研修は、千葉県においては千葉県支部が県からの助成事業としてJSSCRと共催で、2回の実施を計画したが台風とコロナウイルスの影響によりそれぞれ4日前に中止、愛知県支部では社会適応訓練事業として実施された他、横浜市・兵庫県支部ではJSSCRが実施する研修会の開催に協力した。

④ 関係団体及び地域連携

社会福祉法人日本身体障害者団体連合会（日身連）を通し、政府（厚労省・財務省）に対する要望書3件を例年と同様に提出した。また、地域の障害者団体や、がん患者団体とも連携し、相談会やピアサポート活動にも参画した。

III 災害対策

2019年度は記録的な豪雨となった10月の令和元年東日本台風（台風19号）と台風21号をはじめ、8月の北九州北部豪雨、9月の令和元年房総半島台風（台風15号）と風雨による甚大な被害をもたらした自然災害の多い年となった。

これらの災害に対しては、災害救助法の適応地域でOASが実施するストーマ装具の1ヶ月間の無償提供について、適応地域の支部に対して情報提供を行った。尚、ストーマ用品セーフティーネット連絡会によるストーマ装具1ヶ月無償提供により、北九州北部豪雨で2名、令和元年東日本台風で37名の計39名のオストメイトが救済を受けた。

また支部においては地方自治体に対し、公的機関での個人使用ストーマ装具等の備蓄促進の推進、市町村での災害時公的備蓄の推進や供給協定締結、災害時用オストメイトトイレの備蓄促進の要望活動を行った。その結果、2019年から千葉県船橋市と佐倉市でストーマ装具を避難所に公的備蓄が開始され、又、2020年2月から熊本県益城町においては、個人使用ストーマ装具の保管場所に町施設が提供される等の成果も見られた。

更に、医療関係者を中心とした、災害支援ネットワークの構築にも取り組んでいただいた。

IV 会 務

1. 会員・組織整備

(1) 会員増強

会員増強については、支部長会議やブロック会議のテーマとして再三採り上げ、各支部での活動をお願いしているが、昨年は支部からの会員増強のための具体的事例を知りたいとの要請に応え、北海道を除く8ブロックのブロック会議において、会員を増やしている茨城県、神奈川支部の支部役員から、支部で取組の具体的事例や心構え、更には経験談等の講演会を実施したが、各支部では、この講演内容を生かして今後の支部活動に取組まれることを期待したい。

年度末の実績は末尾の、IV項支部活動に示すとおりで、前年比で449名が減少した。

(2) 組織整備

会員数の減少と高齢化により支部運営が困難となる支部が顕在化し、5月に香川県支部と長野県支部の廃止、8月には宮城県支部と仙台市支部を統合、宮城県支部として仙台市支部の廃止を行った。

更に、3月には北海道ブロックの支部体制を見直し、函館支部と北海道旭川支部を廃止し札幌支部を北海道支部に改称し、事業の実施地域を十勝・帯広地区を除く全市町村とする変更と、長野県支部の新設について理事会決議を行った。

尚、年初に計画した現状の事業実施体制に即した組織や管理体制のあり方の検討については、会員・組織委員会を中心に検討するとしていたが、当面する支部問題の対応に追われ未着手で、2020年度は委員会の枠にとらわれずに継続課題とした。

2. 経理処理業務

支部会計担当の高齢化や人材不足で会計処理ソフトの運用が出来ない支部には、本部で入力を代行する支援を行っているが、2020年3月末において本支援を受ける支部は20支部となった。

また、現状の会計処理ソフトが2023年9月にサポート終了となるに伴い、後継のソフトについて、円滑な移行が可能なように全支部・本部のDATAの入力処理を行い仕分け等の検証を継続して実施中で、更に、現金出納帳や決算諸表の移行についても、委託経理会社の提案を受け検討を進めた。

3. 創立50周年記念事業・全国大会

互療会設立来50周年を記念する事業として、内閣府・厚生労働省や東京都、更にはJSSCRとJWOCMの後援を得て、2019年6月8日（土）・9日（日）の両日、東京都の国立オリンピック記念青少年総合センターを会場に実施した。

(1) 創立50周年記念イベントの開催

同センターの国際交流棟において、6月9日（日）・9時30分～14時30分に150名の参加を得て開催した

記念イベントでは、雅楽道友会の皆さんによる雅楽演奏に始まり、記念の式典を挙行、厚生労働大臣（代理）、東京都知事（代理）、日身連会長、顧問医会代表、東京支部・三多摩支部顧問医の先生方のご臨席を賜わり、祝辞をいただくと共に、功労のあった皆様に表彰状・感謝状を贈呈した。

引続き記念講演として、顧問医会代表の進藤勝久先生による記念講演を実施、その後活発な質疑応答を行った。

(2) 第31回全国大会の開催

同センターのセンター棟において、6月8日（土）の午後、支部長会議と交流会、その後、第31回定時社員総会を開催した。

支部長会議においては、支部運営の現状等につき意見交換を実施、交流会では161名の参加を得て交流を深めた。更に、第31回定時社員総会では全案件の承認を得た。

(3) 記念誌の発行

互療会創立以来の本会の半世紀に及ぶ活動を、末長く記録に留めおくために、創立以来の歩みを記した50周年記念誌「協会五十年史」と、会報紙の創刊以来の活動記事を抜粋した冊子「会報でたどるJOAのあゆみ」を刊行し、関係各位に贈呈・配布した。

4. ブロック会議

2019年度のブロック会議は、「支部活動活性化のための資金支援について」と「会員増強に向けて」を共通テーマとして下記日程で開催した。

尚、会議で出た全ての意見・要望については、本部の所見を記し全支部に配布した。

ブロック名	開催日	幹事支部・開催場所
北海道	10月17日	札幌市支部・札幌市 ホテルライフオーポート札幌
東北	9月15日～16日	青森県支部・浅虫温泉 「ホテル秋田屋」
関東	11月16日～17日	川崎市支部・横浜市 横浜あゆみ荘
北陸信越	11月10日～11日	石川県支部・金沢市 金沢マンテンホテル駅前
東海	10月26日	岐阜県支部・(株)八神製作所本社ビル8Fホール
近畿	10月27日	大阪府支部・ホテルビナリオ嵯峨嵐山

中国	10月5日	鳥取県支部・ホテルモナーク鳥取
四国	10月26日	愛媛県支部・道後 友輪荘 1F 会議室
九州	11月12日・13日	大分県支部・大分市J：COMホルトホール

IV 支部活動 令和元年度支部活動状況

	支部名	講演会 講習会 (回)	相談会 (回)	体験 交流会 (回)	宿泊 研修会 (回)	日帰り 研修会 (回)	会報 発行 (回)	本年度 入会者 数(人)	本年度 退会者 数(人)	2.3月 末会員 数(人)	社適 受託料 (円)
1	札幌	2	7	1	1	0	6	22	22	185	180,000
2	とちぎ帯広	2	0	0	0	0	6	1	1	18	108,000
3	青森県	4	0	1	1	0	6	3	14	95	397,000
4	岩手県	13	15	0	0	0	6	22	12	189	819,200
5	宮城県	0	10	0	1	0	6	77	13	146	405,300
6	秋田県	5	0	0	0	5	4	3	14	73	133,400
7	山形県	5	21	0	1	0	6	6	7	44	150,000
8	福島県	10	13	1	1	0	6	8	10	133	183,300
9	茨城県	8	0	5	1	0	5	33	40	302	200,000
10	栃木県	4	2	0	1	0	6	6	16	103	430,000
11	群馬県	1	7	7	1	1	6	2	9	82	293,000
12	埼玉県	4	5	5	1	1	6	13	38	274	382,000
13	千葉県	5	5	5	0	0	6	22	37	360	1,018,000
14	千葉市	3	6	0	1	0	6	5	9	94	272,000
15	東京	8	0	5	0	2	6	20	61	346	707,000
16	三多摩	3	1	0	0	0	6	8	14	197	368,000
17	がん研	0	0	0	1	3	1	1	3	38	0
18	神奈川	9	9	4	2	1	6	27	49	365	300,000
19	横浜市	6	8	1	1	1	6	42	37	384	465,186
20	川崎市	4	0	3	0	1	4	3	8	100	120,000
21	山梨県	1	2	1	0	0	6	4	10	30	0
22	新潟県	10	11	11	1	0	6	3	22	162	412,000
23	富山県	5	24	2	0	0	4	3	5	69	280,000
24	石川県	3	7	3	1	0	6	4	0	67	280,000
25	福井県	2	2	0	1	1	4	0	2	36	231,600
	支部名	講演会 講習会 (回)	相談会 (回)	体験 交流会 (回)	宿泊 研修会 (回)	日帰り 研修会 (回)	会報 発行 (回)	本年度 入会者 数(人)	本年度 退会者 数(人)	2.3月 末会員 数(人)	社適 受託料 (円)
26	岐阜県	2	2	6	1	0	6	2	9	45	100,000
27	静岡県	5	0	1	1	0	6	6	13	114	670,000
28	愛知県	8	0	0	0	0	6	8	24	157	574,000
29	三重県	2	0	0	2	0	0	2	6	44	290,000
30	滋賀県	8	0	1	0	0	6	4	14	76	294,000
31	京都府	2	10	3	0	1	6	18	22	192	940,000
32	大阪府	5	3	5	1	1	6	13	32	214	181,000
33	兵庫県	7	77	12	1	1	6	18	21	391	1,189,000
34	奈良県	3	18	9	0	1	6	15	18	131	136,680
35	和歌山県	4	3	3	0	7	6	11	11	68	186,000
36	鳥取県	3	9	0	0	0	6	9	6	56	389,000
37	島根県	2	12	0	0	3	0	0	1	39	402,000
38	岡山県	9	33	8	1	1	6	6	26	113	270,600
39	広島県東部	2	0	12	0	1	6	2	7	49	93,500
40	広島県	5	0	0	0	0	6	7	5	126	257,990
41	広島県呉	3	2	1	0	1	6	0	4	48	93,500
42	山口県	6	9	0	0	0	4	5	8	89	424,000

43	徳島県	1	1	0	1	0	6	2	7	46	200,000
44	愛媛県	0	1	2	0	0	6	2	10	57	115,000
45	高知県	0	1	0	1	1	6	3	3	45	240,000
46	福岡県	13	12	0	1	0	6	9	29	127	1,210,000
47	福岡市	8	8	1	0	1	3	6	5	76	454,000
48	佐賀県	7	74	3	2	4	6	10	12	86	626,000
49	長崎県	5	0	0	0	0	1	0	2	45	366,667
50	熊本県	2	40	10	1	0	3	13	11	95	192,000
51	大分県	3	0	0	1	2	6	2	4	63	509,000
52	宮崎県	2	12	2	1	0	2	0	1	49	549,000
53	鹿児島県	6	8	0	0	0	8	10	12	86	363,000
54	沖縄県	27	27	27	0	0	0	1	6	14	365,000
合計		267	517	161	32	41	277	522	782	6,663	